

子どもがワクワク伸びる 最新の脳科学



プロのスポーツ選手に必要な力を 生活の中で身につけよう！

子どもたちの“共通理解”と“個性”

あるコーチと話をしていたとき、そのコーチが次のようなことを言っていました。「日本人は“意見の食い違いを人格否定につなげる”傾向があると感じることもある」。海外生活の経験をお持ちの方ならお分かりいただけるかもしれませんが、日本人は意見を闘わせるのが苦手です。海外では、ひとつの問題に対してみんなで意見を交わすのは普通のことです。また、その意見が一致しないのは当然とも言えるでしょう。なぜなら、人はみなそれぞれに異なった感覚や価値観を持っているからです。意見が一致することのほうが稀と言っても過言ではありません。



日本の場合…



海外の場合…

這い上がるよりも、蹴落としたほうが楽！？

スポーツの世界でも指導者の“一人ひとり”が強烈な個性を持っていることが多くあります。当然、意見などまとまらないことがほとんどです。自分の現役時代の経験、慕ってきたコーチの影響、ポジティブ特性などによって、独自の“哲学”があるのです。しかし、残念ながら意見の食い違いを人格否定につなげてしまう人がいます。特に、日本では公衆の面前ではほとんど意見を言わないけれど、影で噂をすることがよくあります。

子どもたちの中で、チームについて話し合いを持ったとしても、中途半端な意見交換で終わってしまうと「あいつ、あんなこと言ってたぜ、最低だな」「頭おかしいんじゃないか」と、後になって後ろ指を指されることもあるのです。特に、育成年代の子どもは自分の成長が第一です。這い上がるためには、他者と共存するよりも、蹴り落としたほうが楽で安心だという気持ちが必要なのです。

安易な話し合いは、かえって亀裂を作ってしまうかも…

ですから、まずは適当な意見交換で済ませずに、徹底的に議論することが必要です。そして、その意見に至った理由や経緯についても耳を傾けましょう。時には「何度理由を聞いても納得できない」という部分も出てくることでしょう。しかし、私はそれでいいと思います。

よくある光景…



こうして方が絶対いい！

あっちの作戦の方が絶対いい！



日本人は意見交換をする機会がとってもし少ない!?

徹底的な議論のうえで意見が一致してきた部分は「共通理解」として大切、一致しなかった部分については「個性」と捉えてはいかががでしょうか。「誰とも意見が一致しない」「同じ考えではない」ということはある意味で大変貴重なことだからです。「共通理解」と「個性」、議論の末に得られるものは、どちらも大切なものだとすることに気づくのが大切ですからね。



自己肯定が否定的な循環を断ち切る！

Science で 2009 年に発表された論文で、著者である Geoffrey Cohen らは中学 1 年生を対象に自分自身の価値について短い作文を書く宿題を課す実験を行いました。この実験を行ったアメリカ系米国人は、肯定的な作文を書くことでテストの成績が高くなったということです。この結果から、自分自身の価値を肯定する介入を行うと、単に 1 学期間という短期間ではなく、中学校在学全期間にわたって成績が向上することが示唆されます。



この研究は早期に行われた自己肯定の練習が、長期にわたって影響を及ぼし、否定的思考に囚われ続けるのを回避させることを明らかにしたもので、子ども達の動機づけの一端を担っていると考えられます。少し難しい言葉でいうと最初の心理学的状態と成績が後の結果を決定していることから、早期に自己肯定の介入を行うことで、循環する否定的思考を断ち切り、長期にわたりより肯定的な結果を促進することができます。



運動療育 **こどもフラスカール**



お問い合わせはこちらから → TEL: 0120-970-421

「参加を希望する教室の住所または地域をオペレーターに申し添えてください。」